宇都宮の歴史を訪ねて⑤ 特集2

戸田氏と宇都宮宿の繁栄

現在の宇都宮は、どのようにして成立してきたか

栃木県考古学会顧問 塙 静夫

宇都宮は江戸の北を守る重要な位置を占め、代々譜代大名が置かれた。また、日光・奥州街道が分岐する追分の宿場、そして人と物が行きかう交通の要衝として賑わった。今も宿場町の面影を残す伝馬町の町名が残る。

戸田氏以前の頻繁な城主交替

元和八年（一六二二）、本多正純の改易にともない、奥平忠昌が古河から再び宇都宮城主として戻り、寛文八年（一六六八）二月までの四六年間、宇都宮城主としてはもっとも長く在城した。同年三月二日、興禅寺（現今泉三丁目）で忠昌の法要が行われた際、家老奥平内蔵允正輝と同奥平隼人守雄が口論から刃傷沙汰となり、やがて世にいう「浄瑠璃坂の仇討ち事件」の発端となった。興禅寺境内に「奥平内蔵允正輝の墓」がある。

奥平昌能と入れ替わりに、山形から松平忠弘が入部し、在城一三年の間に、材木町口・伝馬町口・鼠穴口などが開かれた。鼠穴は宇都宮城の北西側に位置し、表通りの池上町を通らないで、広小路から伝馬町に抜ける細い南裏道である。この裏道通りに面して町同心の屋敷が並んでいた。

松平忠弘のあとも、本多忠泰、奥平昌章・奥平昌成、阿部正邦と頻繁に城主替えが繰り返された。

戸田氏の宇都宮領国支配

宝永七年（一七一〇）八月、阿部正邦に代わって戸田忠真が越後高田から入部した（第一次戸田氏）。享保一三年（一七二八）四月、途絶えていた日光社参が六八年ぶりに行われ、将軍吉宗は往復とも宇都宮城の二の丸に新設された御座所に宿泊された。

忠真のあと、弟忠章の子忠余を養子として本家を継がせ、忠余のあとは忠盈が相続したが、わずか在城三年弱で肥前島原に転封し、入れ替わりに寛延二年（一七四九）、松平忠祇が宇都宮城に入部した。宝暦一二年（一七六二）、忠祇は家督を弟忠恕に譲り、二五歳で隠居した。

財政立て直しのため、忠恕は領内の年貢増収をはかったが、農民の反抗にあい、明和元年（一七六四）籾摺騒動という百姓一揆が起こった。農民の要求は通ったが、首謀者と目された名主鈴木源之丞らを処刑した。源之丞の供養碑が御田長島町にある。

安永三年（一七七四）、松平忠恕は島原に転封となり、代わって島原より戸田氏が再入部し（第二次戸田氏）、以後ようやく廃藩置県まで九〇年以上、安定した戸田氏の領国支配が続いた。

宇都宮復帰を果たした忠寛は、幕府の要職に就くため、将軍家治の日光社参のさい、巨費を投じて接待し、その甲斐あって寺社奉行・大坂城代・京都所司代などに昇進した。

忠寛のあと忠翰が家督を相続したが、凶作や押切町の大火災などによって財政難に苦しんだ。忠翰のあと忠延・忠温が城主となった。忠温のとき、領内に災害が相次ぎ、その上、天保一四年（一八四三）将軍家慶の日光社参などによって出費が重なり、財政難に苛まれた。

忠温のあと、子の忠明が家督を継ぐと、領内の年貢増収のため荒地開墾を奨励したので、菊池教中は鬼怒川沿岸の岡本新田・桑島新田の開発を行った。

幕末に戸田氏は、幼い城主忠明・忠恕と二代続くなか、宇都宮藩の柱となったのが家老間瀬忠至であった。忠恕は勤王の志深く、山陵（御陵）修復や戊辰戦争に尽力したが二二歳で没した。

忠恕のあと忠友が家督を相続し、戊辰戦争後の明治二年（一八六九）、宇都宮藩知事となるが、同四年（一八七一）の廃藩置県にともない官職を解かれ、戸田氏の時代は幕を閉じた。

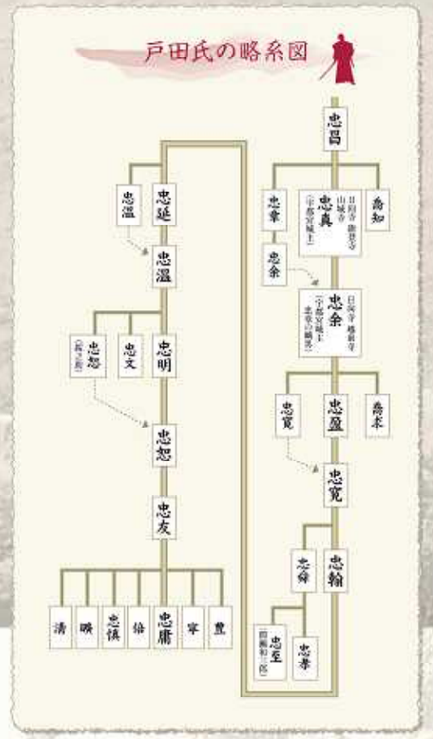
なお、江戸時代中ごろから明治維新までの戸田氏の墓所英巌寺跡（市史跡）は、花房本町二丁目にある。

宇都宮宿の繁栄

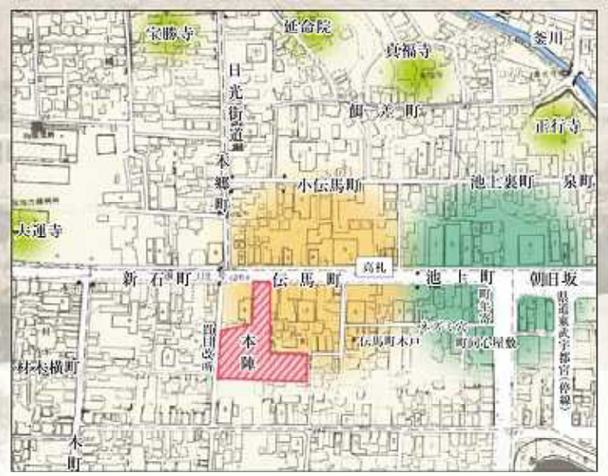
宇都宮宿は、日光街道の江戸から一七宿目にあたり、日光街道と重なってきた奥州街道は伝馬町で分岐したので、宇都宮は追分の宿場として重要な位置を占めていた。とくに参勤交代の奥州諸大名や将軍一行の日光社参、一般庶民の通行など、交通の要衝として賑わったので、日光・奥州両街道の各宿場に常置される人馬は、人足二五人・馬二五疋とされたが、宇都宮宿は特例として人足一〇〇人・馬一〇〇疋の多数が常備された。

宇都宮宿は、城主戸田忠温時代の天保一四年（一八四三）当時、宿内の家数一二一九軒、人口六四五七人であったが、宿の中心は伝馬町・小伝馬町（現泉町）・池上町で、伝馬町と池上町に本陣、伝馬町に脇本陣があり、旅籠屋は四二軒あった。また、人馬の継ぎ立てなどを行う問屋場と、日光街道を往来する荷駄の重量を検査する幕府の貫目改所が伝馬町にあった。ほかに小間物屋・造酒屋・八百屋・足袋屋・仕立屋などが店を並べ、戸田氏が支配したころ、伝馬町から池上町にかけた一帯は、宇都宮城下で最も賑やかなところであった。しかし、今ではわずかに本陣の屋敷内にあったイチョウの大木が、ビルの谷間に当時の面影を伝えているにすぎず、付近一帯の街並みは大きく変貌してしまった。

写真上／本陣跡のイチョウ（伝馬町）
写真下／鈴木源之丞の供養碑（御田長島町）



宇都宮宿の中心だった伝馬町・池上町付近
（江戸時代末期の復元図）



戸田氏の墓所（英巌寺跡、花房本町2）

奥平内蔵允正輝の墓（興禅寺境内）